

日本疾患幹細胞学会ご講演

産学連携による疾患メカニズム解明から 創薬実装までの橋渡し

背景

疾患幹細胞学は、ヒト疾患の分子基盤を患者由来iPS細胞などの幹細胞技術を用いて直接解析し、疾患の発症機構・治療標的・薬効予測を解明する学際領域です。日本はiPS細胞の誕生した国として、疾患幹細胞を活用した疾患モデル構築や創薬研究を推進してきました。

学会の概要

「疾患幹細胞学会」は、基礎研究者から臨床医、製薬・バイオ産業関係者までが一堂に会し、疾患幹細胞を基盤とした疾患病態解明・創薬研究の最前線を議論する場として設立されました。オルガノイド、マルチオミクス解析、マイクロ流体チップ(MPS)、AI解析などの技術との融合が進み、疾患解明基盤としての応用展開が加速しています。

企業への価値・展望

本学会は、疾患幹細胞を利用したin vitro疾患モデルによる創薬支援・毒性評価・患者層別化など、産業界に直結する研究成果を数多く発信していきます。今後は、産学連携によるデータ共有基盤の整備、疾患特異的細胞モデルの標準化、AI活用による創薬効率化などが重要なテーマとなります。企業との協働を通じて、「ヒトベースの創薬」の社会実装を推進していきます。



演者
井上 治久 氏

職歴・研究歴

- 1992年 京都大学医学部附属病院神経内科
- 1993年 財団法人住友病院神経内科
- 1997年 国立精神・神経センター神経研究所 研究生 / 流動研究員
ペイチ医科大学神経病理学教室(ハンガリー)研究員
- 1999年 理化学研究所脳科学総合研究センター スタッフサイエンティスト
- 2004年 ハーバード大学医学部 博士研究員
- 2005年 京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座臨床神経学(神経内科)助手 / 助教
- 2009年 京都大学物質・細胞統合システム拠点 iPS細胞研究センター 特定拠点准教授
- 2010年 京都大学iPS細胞研究所 准教授
- 2014年 京都大学iPS細胞研究所 教授
- 2017年 理化学研究所バイオリソース研究センターiPS創薬基盤開発チーム チームリーダー(併任)
革新知能統合研究センターiPS細胞連携医学的リスク回避チーム 客員主管研究員(併任)
- 2022年 京都大学iPS細胞研究所 部門長(基盤技術研究部門)
- 2024年 京都大学iPS細胞研究所 副所長
- 2025年 日本疾患幹細胞学会 理事長

詳細はこちら



11/25^{TUE} 12:20 - 12:50 3棟2M階 アイパークオフィス前の緑のスペース(通称:ジャングル)